

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第167号	氏名	吉岡 英将
学位審査委員	主査 中山 浩次 副査 林 善彦 副査 藤原 卓		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、歯肉縁上プラークの TLR 2 および TLR 4 刺激作用と採取部位の歯肉炎並びに歯周炎臨床指数との関連を解析したものであり、歯周病の病因を自然免疫学的に解明しようとする観点から目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>被験者から採取された歯肉縁上プラークの TLR 2 および TLR 4 刺激作用は、CHO 細胞由来 NF-κB レポーター細胞(CHO/CD14、7.19/TLR 2)を用いて測定され高純度標品の活性との対比により標準化されている。また、プラーク中の菌数測定は TaqMan プローブを用いた Real-time PCR 法により行われ、<i>A. actinomycetemcomitans</i>、<i>P. gingivalis</i> そして <i>S. mutans</i> は、それぞれの菌から抽出した DNA との対比により菌数を算出しており研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で得られた結果は、2 群間の比較は Mann-Whitney の検定で、相関関係については Spearman の順位相関係数を用いて解析された。その結果、縁上プラークの TLR 2 および TLR 4 刺激作用は、それぞれ歯周炎および歯肉炎の臨床指数と負または正の関連性を示すことが明らかとなり、今後の歯周病免疫学的研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は歯周病免疫学的研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			